



代表取締役社長
田中 隆之進

【事業計画名】

設備更新による製本事業の生産性と収益性の改善

背景・目的

製本業のピンチをチャンスに変えたい

当社は、印刷会社から持ち込まれた印刷物に対し、無線綴じ、中綴じ、折りなどの加工作業をして納品する総合専門製本業を営んでいます。材料手配や在庫管理等も必要なく、紙の仕入れ資金が不要であることから、粗利益率の高いビジネスとして、地域の紙媒体による情報発信を支えてきました。

しかし近年、インターネットが普及し、情報取得方法が変遷したことにより書籍・雑誌などの発行部数が低迷し、大手印刷企業では綴じ加工業務の内製化などのコストカットを行うようになりました。このような環境の変化によって、印刷・製本の市場規模も年々減少しており、青森県南地域の製

本業者も当社を含め2社のみとなっていました。業者の減少によって年度末および年度初めの時期においては季節的な需要過多の状況に陥り、受注を断らなければならないケースも発生していることから、より生産性を上げられる設備の更新が喫緊の課題でした。

実施内容

3台の冊子加工機械を導入して加工作業を機械化

特定期間に集中する需要に対応できる生産体制を構築するために、三方断裁機、マーブル・クロス貼り機、横型プレスカッターの3台を導入しました。

三方断裁機は、付属のタッチパネルに断裁前のサイズを入力するだけで、A4～A6サイズまで自動で三方の断

裁が可能です。マーブル・クロス貼り機は、伝票などの背中部分の補強のために付けるテープを自動で貼る機械になります。横型プレスカッターは、冊子の折り部分が膨らまないよう、機械で圧力を掛けることで折り目を潰す機械です。3台とも作業の効率化と生産

性向上を第一に機械を選びました。



事業成果

手作業から機械化で大幅な効率化と受注増

三方断裁機では天・地・小口の3方向の断裁を一度のセットで行うことができるようになりました。裁ち屑も一カ所に集積できるため、作業後の後始末が簡素化できています。また、今までネックとなっていた無線綴じの仕上げ裁ちを一度に5～10冊単位で行うことが可能になり、作業時間の短縮につながっています。

これまでは伝票などの背中にクロ

ス貼りをするのにすべて手作業で行っていましたが、マーブル・クロス貼り機の導入によってクロスを巻いていた工程が自動化となり、品質と生産性が一気に向上しました。横型プレスカッターにおいては、手作業によって冊子の折山をつぶす工程を、機械でプレスすることにより作業スピードも上がりました。また、手作業でつぶしていたときより圧縮することができ、折部分の

仕上がりもきれいになっています。



ココがポイント

安全性も向上し、全体の作業時間が4～5倍速！

これまでの製本作業は手作業が多く、効率が悪い上に機械設備の形状から危険を伴う工程も多かったのですが、今回機械の導入によって作業効率、安全性が向上し、従業員への作業負担を減少させることができました。さらに導入後は一人で行える作業が増え、省スペースで各々の担当者が機械に対応できています。



今後の展望

短納期、低価格を目指して一層の受注拡大へ

3つの機械の導入により、製本された成果物は品質が手作業に劣ることなく、また小ロットでの発注にも対応可能になりました。機械化によって作業効率が向上したことで、これまでは1人で3～4日掛かっていた作業が、1～2日で完了できるようになりました。作業時間の短縮によって、納期が厳しい受注案件にも対応できています。今までネックとなっていた無線綴じは、一度に10冊単位で仕上げを行うことが

できるようになったため、大量ロットの価格帯を少し低めに設定でき、短納期化を図ることで受注につなげていきたいと考えています。横型プレスカッター導入後は、取引先の印刷会社から中綴じの冊子の受注も増えてきているため、営業の切り口として中綴じの冊子製本は今後も取引会社へ売り込んでいきたいと思っています。

当社は平均年齢35.6歳と若いメンバーで構成されている会社です。今後

も新たな感覚を取り入れ、業務拡大を目指していきます。



株式会社田中紙工

代表取締役 田中 隆之進

◎創業 平成10年

◎資本金 1,000万円

◎従業員 7名

〒031-0072 八戸市城下1丁目20-19
TEL.0178-43-9887 FAX.0178-43-8525

